

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年3月31日

報告者	学科名	現代福祉	職名	助教	氏名	井上 祐介
研究課題	ヘルスケア領域におけるSIB事業の現状と課題：シスマティック・レビュー					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	井上祐介	現代福祉学科・助教	医療福祉マネジメント, 公衆衛生, 地域福祉	研究総括	
	分担者	鄭丞媛	新見公立大学・教授 国立長寿医療研究センター・外来研究員	老年社会科学, 社会疫学	事例検討	
研究実績の概要	<p>【背景】</p> <p>ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）とは、「民間の活力を社会的課題の解決に活用するため、民間資金を呼び込み、成果報酬型の委託事業を実施する新たな社会的インパクト投資の取組」である（経済産業省）。社会的インパクトとは活動や投資によって生み出される社会的・環境的変化を指すもので、その対象は平等、生活、健康、栄養、貧困、安全、正義といった問題である（Epstein, 2015）</p> <p>SIBは2010年に英国で受刑者の再犯防止事業に導入された。その後、ヘルスケア領域にもSIBの導入が行われ、これまでに米国（喘息など）や英国（在宅ケアなど）、カナダ（高血圧の予防）、オーストラリア（メンタルヘルス）、ニュージーランド（メンタルヘルス）、イスラエル（糖尿病の予防）で事業展開されている。その他にも、ブラジル（生活習慣の影響を受ける長期的症状）や南アフリカ（HIVの予防）、オランダ（在宅ケア）だけでなく、モザンビーク（マラリア）やウガンダ（睡眠障害）などの発展途上国でもSIBの検討がなされている（Torre et al., 2018; Boehler, 2014）。</p> <p>日本では2015年に経済産業省がヘルスケア領域へのSIBの普及を目指し「日本版ヘルスケアソーシャル・インパクト・ボンドの基本的な考え方」を策定・公表した（経済産業省, 2015）。そして、「未来投資戦略2017」の中で、モデル事業の実施を通じた評価指標の設定等の環境整備や地方公共団体における案件形成の支援等を行うことが明記され、複数の自治体でSIBが導入された。申請者に関わりのあるA市においても、地域住民の健康増進の強化等を目的とし、2019年にSIBによる健康増進事業を導入した。申請者らは2019年以降、SIBを活用した事業にどのような人が参加するのか、SIBが人々の行動変容につながったかなどについて検討し、その成果を発表してきた（井上・他, 2022; 鄭・他, 2022; 芳我・他, 2022）。</p> <p style="text-align: center;"><SIBの一般的なスキーム></p> <p>出典：経済産業省：ヘルスケア領域における ソーシャル・インパクト・ボンドの普及に向けて, 2018.</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>しかし、世界的に見て、SIBがどのような分野で展開され、どのような効果が出ているのか、どのような課題が生じているのかについての包括的な検討は十分に行われておらず、研究課題として残っている。</p> <p>【目的】 そこで本研究では、今後日本においてSIBを効果的に展開するうえで考慮すべき点を探索することをねらいとし、ヘルスケア領域におけるSIB事業の現状と課題について明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】 ヘルスケア領域におけるSIB事業の全体像を把握するため、PubMed等の文献データベースを用い、“Social Impact Bond” “Pay for Success”などのKeywordによって出てきた文献の検討を行った。結果についてはSIB事業に関わる研究協力者らとも検討を行った。</p> <p>【結果】 16件が抽出された。それらを検討した結果、ヘルスケア領域においてSIBおよびpay for successが導入されている国は、日本、米国、オーストラリア、南アフリカ、イスラエルなどであり、対象は、予防医療、ヘルスケアシステムの改善、ホームレス支援、糖尿病予防、HIV予防と治療、大腸がん検査、精神疾患予防、子どもの肥満対策、C型肝炎予防などであった。効果を挙げている事例もあるが、その有効性については必ずしも十分に明らかにされていない状況である。</p> <p>【結論】 SIBは民間資本の導入を促して、社会課題を解決する枠組みであり、ヘルスケア領域でも世界的に導入が進んでいた。日本でも自治体レベルでの導入が広がりつつあり、その効果の検証も行われつつある。他方で、どのような領域で、どれくらいの予算規模で、どのような枠組みで運営すればよいかなどについては海外も含めて十分な検証ができていないのが現状であった。日本でも、SIB事業を進めながら検証を続け、エビデンスの蓄積が求められる。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ol style="list-style-type: none"> 井上祐介, 鄭丞媛, 芳我ちより, 方恩知, 近藤克則: SIBによる健康ポイント事業の参加者の運動, 栄養・食生活, 社会参加, ソーシャル・キャピタルの3年間の変化. 第33回日本疫学会学術総会, 2023. 鄭丞媛, 井上祐介, 芳我ちより, 方恩知, 近藤克則: 健康ポイント事業における「ウォーキングポイント」は医療費の抑制につながったのか. 第33回日本疫学会学術総会, 2023.